

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (静岡と世界を繋ぐマイプロジェクトコース)			訪問国	フランス
学校名	静岡県立清水南高等学校	氏名	太田小春	学年	2

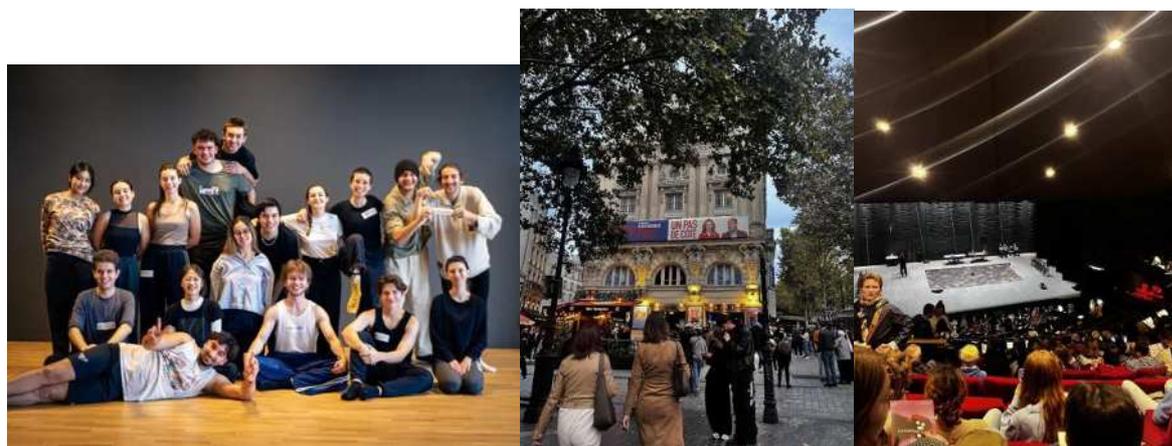
## 1 目的・応募理由

私は清水南高校芸術科演劇専攻に在籍しています。これまで演劇を通して、韓国の高校生やフランスの芸術学生と交流をしてきました。その中で、第一言語が異なる相手とも、身体表現や発声を通して通じ合える演劇ならではの交流に大きな魅力を感じました。

数ある国の中でフランスへの留学を決めた理由は、昨年11月にフランス・ルーアン市の芸術学校コンセルヴァトワールの演劇・音楽・ダンス専攻の学生が私の高校を訪れ、三日間共に演劇の授業を受けた経験にあります。授業では、普段コンセルヴァトワールで行われているエクササイズやワークを共有してもらい、また一人の学生がモノログを披露してくれました。そのモノログはフランス語で書かれた作品でしたが、言語の壁を越え、演じられた役の孤独や哀しさがエネルギーとなって強く心に響き、深く感銘を受けました。さらに最終日には、演劇・音楽・ダンス専攻の学生が融合したパフォーマンスが披露され、言葉に頼らず観る者に伝える高度な表現力に圧倒されました。この経験から、世界中で活躍できる舞台俳優になるためには、現地で学びを深める必要があると強く感じました。

また、フランスでは芸術家を支援するアンテルミタン制度が導入されており、日本と比べて芸術が社会に根付いている点にも大きな魅力を感じました。俳優訓練法や演劇の歴史から見える日本とフランスの演劇の違いを探究し、将来は静岡を拠点に世界で活躍できる舞台俳優になるための力を培いたいと考え、フランス留学を志望しました。

## 2 研修内容等（語学研修、授業日程、休日の過ごし方、ホストファミリー）



語学学校には週5日通い、午前9時から午後1時00分、午後2時00分から午後4時00分まで授業を受けました。夕方の空き時間や土日には、野外劇やオペラなどを鑑賞するため劇場を訪れました。

コンセルヴァトワールでは、週6日、月曜日から土曜日までの間に、演劇・合唱・ダンス・ミュージカルの授業が1日3～6時間組まれていました。授業の空き時間や夕方、休日には、現地の学生たちと観劇に出かけたり、パリの劇場で現代劇を鑑賞したりしながら、日本の演劇や伝統芸能について共有し、演劇に対する価値観を深く語り合いました。

また、アンバサダー活動として、能の経験を生かし、三保の松原に伝わる羽衣伝説をもとに

した能「羽衣」の仕舞を、留学前に師匠から指導を受けて稽古を重ね、コンセルヴァトワールや現地のフランス人の知人の店で披露しました。その際には、フランス人の友人に能や羽衣伝説の神話について説明してもらい、協力を得ながら発表を行いました。

ホストファミリーについては、コンセルヴァトワールに所属する日本人のピアノ教師の方に手配していただき、第一週目は語学学校の手配先だったのですが、それ以降は学生や先生方のお宅に滞在しました。結果として5軒の家庭にお世話になりましたが、卵と牛乳のアナフィラキシーショックを伴う重度のアレルギーを持つ私のために、毎朝晩温かい食事を用意してくださり、デザート文化のあるフランスならではの配慮として、アレルギー物質のないデザートを用意してくださるなど、心からの優しさを感じました。

特に印象に残っているのは、日本から持参したうどんセットを使い、「もう一度日本で食べたいうどんを味わいたい」と話していたピアノ専攻の学生と一緒に夕方うどんを作った時間です。この交流は、文化を越えて心が通じ合った大切な思い出となりました。

### 3 感想等

帰国後も、毎日「また戻りたい」と思えるほど、多くの人に支えられながら学びの多い充実した留学生活を送ることができました。

また、日本が大好きで将来日本映画を制作したいと考えているコンセルヴァトワールの学生から、自作の詩や『マクベス』の独白を日本語で朗読し、録音したいという依頼を受け、撮影協力を行いました。このような素晴らしい縁に出会えたのも、自分が勇気を出して一歩踏み出したからこそだと感じています。留学を通して、帰国後の自分自身の姿勢や考え方が大きく変化したことを実感しています。

